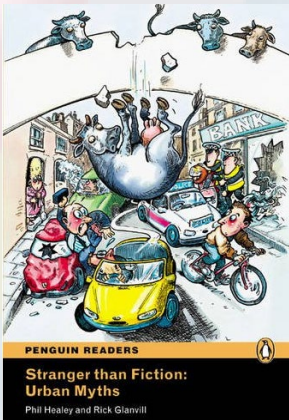


EXTENSIVE READING #8



今月は *Stranger than Fiction: Urban Myths* (Phil Healey and Rick Glanvill) を紹介します。クスッと笑える奇妙な話が集められています。今回のポイントは二つ。

まずは、Chapter 3 中にある Hit the Floor! から。イングランド在住の若い夫婦ははじめてアメリカのニューヨークに旅行に行くことにしました。夫はニューヨークを危険だと警戒しています。妻は用心すれば大丈夫、と励まします。

So they arrived in New York early in the evening and found a hotel. (p. 24)

全体としての意味は簡単にわかりますが、この So が解釈できるでしょうか。so といえば、「だから」という意味や、「そう、そのように」という意味がおなじみでしょう。あとは「とても」という意味もありますね。ここの So はどの意味でもなく、「そして、そんなこんなで」を表します。直前で説明された経緯をうけて、物語を前に展開する役割があります。

もう一つ、同じく Chapter 3 の Beer Today, Gone Tomorrow から。John には入院している祖父がいます。ある日、祖父は John にビールを持ってきてくれるように頼みます。John は戸惑いながらも、祖父に応じます。

So the next day John went back to the hospital with some bottles of beer in a bag and gave it to his grandfather. (p. 33)

この英文の So は「だから」の意味です。さて、ここで問題です。John は祖父にビールをどのようにして渡したのでしょうか。状況が頭の中に浮かびますか。ビールのボトルを一本ずつ出しながら渡してあげたのではありません。gave の目的語である it に注目しましょう。it は原則単数の名詞に対応するので some bottles of beer を直接指すことはできません。では単数の名詞は他になにがあるかというと、a bag です。ビールのボトルを袋ごとまとめて渡したのです。なんでもないような代名詞でも、何を指しているかを基本に忠実に考えていくことは、読解の上でとても大切です。

2020年度はこれが最終号となります。第1回から様々なジャンルの Extensive Reading 本を紹介してきましたが、易しい印象を受ける英単語やフレーズにも普段とは違う意味がありましたね。皆さんはいかがでしたか？ それらを知ることによってストーリーがより一層深く理解でき面白くなるのではないのでしょうか。英語教育センター教材室には、他にもたくさんの Extensive Reading の本がレベル別に揃っています。お気に入りの本がきっと見つかりますよ。ぜひ足を運んでくださいね。